

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

社会と調和し、自立して生きる力を育む、地域から信頼される学校

企業や施設、保・幼・小・中・大学等、関係諸機関と連携することで、地域の組織や人材とともに先進的なキャリア教育や多様な学びを実践し、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりをめざす。

- (1) 自己を高める力（確かな学力・ねばり強さと未来に希望を持つ志）の育成
- (2) 人とつながる力（人とつながる喜びを知り、自分を大切にするとともに他の人も大切に、周囲と協力し合う力）の育成
- (3) 社会に貢献する力（地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力）の育成

2 中期的目標

1 学習活動の充実

- (1) 全教員で授業力向上に取り組み、エンパワメントスクールの特徴を踏まえた「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」を進める。
- (2) エンパワメントスクール（総合学科）として選択科目やエンパワメントタイムの学習内容を充実させ、教育活動の活性化を図る。
 - * 生徒学校教育自己診断における「授業がわかりやすく楽しい」の肯定的評価（授業満足度）を令和10年度にも75%以上を維持する。（R5：78.3%、R6：77.4%、R7：76.2%）

2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり

- (1) 生徒一人ひとりを大切に生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立を図り、中途退学を防止する。
 - * 中途退学率を令和10年度に5%以下にする。（R5：5.7%、R6：5.6%、R7：5.6%）
- (2) 担任・学年団、生徒指導部、人権保健部、教育相談等が連携して面談や家庭訪問を行うなど、保護者との連絡を強化し、生徒が安心して学校生活を送れるよう組織的に取り組む。
- (3) 中高連携を緊密に行うことで中学校在籍時の状況を早期に把握し、得た情報を個々の生徒指導に活かす。
- (4) スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、キャリア教育コーディネーター（CC）との連携を深めて教育相談の充実を図り、安心して学ぶことができる環境を確保する。また、障がい等により配慮や支援を必要とする生徒、日本語指導が必要な生徒、不登校経験のある生徒等に対して、個々の状況に応じた学習支援や進路支援を行う。
 - * 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価を令和10年度にも75%以上を継続する。（R5：77.9%、R6：81.7%、R7：84.7%）
- (5) 学校行事や特別活動、生徒会活動等を通じて仲間づくりに取り組み、学校・学年・学級への帰属意識を醸成することで生徒の自己有用感を高める。
- (6) 教職員が校外の人権教育に関する研修に参加して理解を深めるとともに、教育活動におけるすべての実践にそれらが反映するよう努め、学校全体で人権教育を推進する。
- (7) 外国にルーツのある生徒たちはもとより、すべての生徒たちの多様性を大切にして学習保障と進路保障支援を行い、一人ひとりの力を最大限に伸ばす教育を進める。
 - * 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価を令和10年度にも80%以上を継続する。（R5：87.7%、R6：85.1%、R7：87.8%）

3 キャリア教育・進路指導の充実

- (1) 卒業後を見据えて生徒たちに勤労観・職業観・社会人基礎力を涵養し、将来の自分の生き方に展望を持つよう積極的に働きかけることで、進学・就職を支援する。
- (2) 学ぶこと、働くこと、自分らしく生きることの大切さを理解し、自己肯定感を持てるよう、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・進路指導を実践する。
- (3) 外部の機関と連携して、個別最適な指導・支援体制を構築し、支援の必要な生徒の進路支援の充実を図る。
- (4) インターンシップやデュアル実習を、地域やその周辺の事業所・施設・教育機関等と力を合わせて実施することにより、次の世代を育てる同志として、互いにつながり合い、学び合い、助け合い、組織としてともに成長を図る。
 - * 進路決定率を令和10年度にも85%以上を維持する。（R5：89.3%、R6：89.5%、R7：94.2%）
 - * 生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方」肯定的評価を令和9年度にも85%以上を継続する。（R5：85.4%、R6：85.6%、R7：85.4%）

4 エンパワメントスクールとしての教育活動の充実と積極的な情報発信

- (1) 教職員が協力し合って、エンパワメントスクールとしての特徴を活かした教育内容の充実を図る。
 - * 生徒学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」肯定的評価（学校生活満足度）を令和10年度にも75%以上を維持する。（R5：75.6%、R6：75.9%、R7：73.8%）
 - * 生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価（エンパワメントスクール満足度）を令和10年度も80%以上を継続する。（R5：86.6%、R6：88.1%、R7：86.5%）
- (2) スクール・ミッションやスクール・ポリシーに基づいて、先進的なキャリア教育（デュアルシステム等）や、基礎からしっかり学びなおせるエンパワメントスクールの取組み、充実した人権教育等が行われている教育活動の様子を保護者、中学校、地域の方々を含め広く発信し、本校の魅力を伝える。

5 大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき、教職員の働き方改革を進める

- (1) 府の部活動方針を遵守し、ノークラブデー・全庁一斉休日・学校休業日を実施する。
- (2) 効率的な学校運営に努めるとともに、業務の精選を行い、超過勤務時間縮減を図る。
- (3) ゆとり週間等の取組みを通じて休暇を取得しやすい環境を整備する。
 - * 教員の時間外在校等時間の年間平均時間を令和10年度には295時間以下とする。（R5：296時間、R6：296時間、R7：290時間55分）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和8年実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[令和7年度値]	自己評価
<p>1 学習活動の充実</p>	<p>(1)-1 生徒が集中して学習に取り組める学習環境を整備し、わかる喜びや学ぶ意欲を引き出す授業を展開する</p> <p>(1)-2 教員の授業力等の向上</p> <p>(2) エンパワメントタイムにおける授業内容の充実</p>	<p>(1)-1 ア 授業規律の指導内容について全校で改めて共有し、その実施に教員全体で連携して取り組み、授業を通じた生徒指導を行う。</p> <p>イ モジュール授業や習熟度別授業等を通じて、わかる喜びや学ぶ意欲を引き出すとともに、基本的な学力の定着を図り、生徒の自己肯定感を高める。</p> <p>ウ 障がい等により配慮や支援を必要とする生徒、日本語指導が必要な生徒等に対して、個別の状況に応じた学習支援や進路支援を行う。</p> <p>(1)-2 ア 授業力向上委員会を中心に、教育産業による学習支援サービスの活用について研究を深めるとともに、授業研究や公開授業を通じて授業力向上の取組みを行い、全校的に「わかる授業づくり」「生徒の学習意欲を引き出す授業づくり」を進める。</p> <p>イ ICTを活用した授業を推進し、学習支援サービスの効果的な活用も検討しながら「主体的・対話的で深い学び」の深化を図る。</p> <p>ウ ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成を図り、学校力を向上させる。</p> <p>(2) ア 「正解が1つではない課題」への取組みを通じて、社会人基礎力やコミュニケーション能力、情報活用能力を身につけさせる。</p> <p>イ 1年生で実施するインターンシップと2・3年生で実施するデュアル実習をはじめ、エンパワメントタイムの取組み全体を通して、自己実現を図ろうとする意欲や態度を育む。</p> <p>ウ 授業において、外部や地域の教育力を活かす取組みを積極的に実施する。</p>	<p>(1)-1 ア・生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定的評価（授業満足度）75%以上を維持[76.2%]</p> <p>イウ・生徒学校教育自己診断「30分授業」肯定的評価85%以上を維持[91.3%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの観点をもって、授業における提示等を行うとともに、教材や配付プリントの作成を行う。 <p>(1)-2 ア・授業研究や公開授業を実施し、教科会議等で授業改善について検討する機会を持つ。（授業研究年5回以上実施[6回]）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員学校教育自己診断「指導方法等についての検討」「授業内容について」「指導方法の工夫・改善」に関する項目の肯定的評価平均60%以上[57.3%] <p>イ・教員学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用」肯定的評価85%以上[80.7%]</p> <p>ウ・校内初任者研修・10年経験者研修の計画的な実施</p> <p>(2) アイ・生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価85%以上を維持[88.1%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員学校教育自己診断「参加体験型の学習指導等の工夫改善」肯定的評価85%以上[77.2%] ・インターンシップ（1年生）の出席率95%以上の維持[95.6%] ・デュアル実習（2・3年生）の出席率93%以上の維持[2年89.8%・3年95.1%] <p>ウ・生徒学校教育自己診断「授業や部活動などで、保護者や地域の人と関わる機会がある」肯定的評価50%以上維持[62.0%]</p>	
<p>2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導</p>	<p>(1) 一人ひとりの生徒を高校生活に定着させる生徒指導</p> <p>(2) 保護者との丁寧な連携</p> <p>(3) 中高連携の充実</p>	<p>(1) ア 丁寧な遅刻指導、服装指導、生徒との面談等により、基本的生活習慣を定着させるとともに規範意識の涵養を図る。</p> <p>(2) ア 家庭連絡や家庭訪問等を丁寧に行い、保護者と連携することを通じて信頼関係を築き、生徒理解を深める。</p> <p>(3) ア 入学当初に随時迅速な中高連携を実施するとともに中高連絡会を開催することで、中学校在籍時の状況を把握し、得た情報を個々の生徒指導やキャリア教育に活用する。</p>	<p>(1) ア・中途退学者率5%以下[5.6%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席のべ人数の減少[6906人] ・遅刻のべ人数の減少[4349人] <p>(2) ア・保護者学校教育自己診断「学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」肯定的評価75%[70.5%]</p> <p>(3) ア・入学当初の全出身中学校との中高連携実施[全出身中学校に実施]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高連絡会を1回実施[1回] 	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">と魅力ある学校づくり</p>	<p>(4) 多様な人材・機関との連携による充実した教育相談機能と生徒の居場所がある学校づくり</p>	<p>(4) ア 教育相談室・図書館を定期的に開室し、生徒を受け止める居場所をつくる イ 生徒や保護者が専門人材（SC・SSW）等による支援を受けやすい体制をつくり、学校生活全般についてサポートを充実させる。</p> <p>ウ 要配慮生徒等に関する生徒の情報共有会議を効果的に実施し、教育活動全般に活かす。</p> <p>エ 専門人材(SC及びSSW等)と連携して迅速に要配慮生徒のケース会議を実施し、生徒の状況やニーズに応じた学習支援や学習環境づくりを進める。</p> <p>オ 子ども家庭センター等、関係外部機関との連携を拡充し、教育相談の充実を図る。</p>	<p>(4) ア・教育相談室・図書館の定期的な開室（昼休み） イ・生徒学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」肯定的評価 70%以上維持 [73.6%] ・教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備されている」肯定的評価 80%以上維持 [89.5%] ウ・情報共有会議の実施（学年会議・教科担当者会議・学習指導会議） エオ・専門人材や外部機関とも連携したケース会議の迅速な実施</p>	
	<p>(5) 行事等を通じた自己有用感の育成</p>	<p>(5) ア 生徒が安心できるクラスづくりを進める</p> <p>イ 学校行事や生徒会行事、部活動の紹介や体験入部等、様々な場面で生徒が自主的に活動できる機会を設け、生徒による主体的な取り組みの充実を図る。</p>	<p>(5) ア・生徒学校教育自己診断「学校・クラスが楽しい」の肯定的評価 75%以上 [81.1%] イ・生徒会主体の行事等運営 ・生徒学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるよう工夫」肯定的評価 80%以上を維持 [83.5%]</p>	
	<p>(6) 人権教育の推進</p>	<p>(6) ア 生徒を対象にした人権学習を系統的に実施し、多様性を尊重する姿勢を身につける。</p> <p>イ 薬物乱用防止、性に関する指導、がん教育等の講演会を計画的に実施する。</p> <p>ウ 人権教育やカウンセリングマインドによる生徒指導、教育相談、支援教育等をテーマとした教職員研修を実施し、教職員の人権感覚を磨く。</p> <p>エ いじめ対策委員会を中心に、いじめを早期に発見し、迅速かつ適切な対応を行う</p>	<p>(6) ア・生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価 85%以上を維持 [87.8%] イ・各種講演会の効果的な実施 ウ・職員研修の実施、年間3回以上 [4回] エ・いじめ対策委員会の迅速実施 ・生徒学校教育自己診断「先生はいじめについて真剣に対応してくれる」肯定的評価 80%以上を維持 [84.7%]</p>	
<p>(7) 多様性を大切にす る教育の推進</p>	<p>ア 外国にルーツがある生徒の言語や文化等のアイデンティティを大切にするとともに、生徒間の交流を進め、ともに学ぶ多文化理解教育を推進する。</p>	<p>ア・生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会が多い」肯定的評価 60%以上維持 [73.5%]</p>		
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 キャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>(1) 勤労観・職業観・社会人基礎力を育む取り組みの実施</p>	<p>(1) ア インターンシップやデュアル実習、各種検定試験の取り組み等、様々な取り組みを通じて勤労観・職業観・社会人基礎力を涵養し、生徒が自らの可能性を広げ、主体的に進路を考えられるよう支援する。</p>	<p>(1) ア・生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価 85%以上を維持 [85.4%]</p>	
	<p>(2) 体系的なキャリア教育・進路指導の実践 (3) 支援の必要な生徒の進路支援の充実 (4) 地域との連携強化</p>	<p>ア 進路説明会や社会人講話、企業・専門学校・大学等の見学、進路講演など、体系的なキャリア教育を実践し、進路決定及び定着を図る。</p> <p>ア アセスメントの観点をもって個別の課題に応じた学習やキャリア教育を実践するとともに、外部機関と連携して、多文化生や支援を要する生徒の進路実現を支援する</p> <p>ア デュアルシステムに参加してもらえる企業や施設を拡充して、生徒のニーズに合った実習を進めるとともに、協力事業者との連携充実を図る。</p> <p>イ 企業や施設等から地域の様々な人材をエンパワメントタイム等の講師に招き、地域とともに教育活動を進める。</p>	<p>ア・進路未定率 15%以下 [5.8%] ・学校斡旋就職内定率 95%以上 [96.5%] ア・「発達と習得のものさし」を活用した日本語習得支援方法の確立 ・就労支援施設や障がい者就労・生活支援センターと連携した進路支援の確立 アイ・地域学校協働本部と連携したデュアルシステム意見交換会の開催 [1回] ・デュアル地域学校協働本部の開催年間3回以上 [3回]</p>	

		ウ 地域の外部機関(東大阪市や中小企業家同友会や商工会議所等)や小・中・大との連携を強化する。	ウ・教員・生徒による地域の外部機関のイベント、会合への積極的参加 [11回]	
4 エンパワメントスクールの教育活動充実と積極的な情報発信	(1) エンパワメントスクールの特徴を生かした教育活動の充実 (2) 積極的な情報発信	(1) ア クラス単位で取り組むエンパワメントタイムやHR活動、学年行事、課外活動等を通じて、学校・学年・学級への帰属意識を醸成し、生徒の自己有用感を高める。 イ キャリアコーディネーター(CC)等専門人材の活用を進める。 (2) ア 中高連携・学校説明会、公開授業を積極的に実施し、本校の特色の理解と信頼を獲得する。 イ ホームページ(HP)やSNS等様々な媒体を活用して、教育活動の様子を保護者、中学校、地域の方々を含め広く発信し、本校の魅力を広報する。 ウ PTA・同窓会との連携を深め、学校行事やPTA活動の活性化を図る。	(1) ア・生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価 85%以上を維持 [86.5%] イ・CC等専門人材の積極的活用 (2) ア・広報を目的とした、全職員による中学校訪問の継続 [85校] ・学校説明会参加者 300人以上 [480人] イ・Web ページやリーフレットのリニューアルの具体的検討 ・HP ブログ・SNSの更新 60回以上 [34回] ウ・保護者学校教育自己診断における「授業参観や学校行事に参加」評価 40%以上を維持 [61.9%]	
5 教職員の働き方改革を進める	(1) 働き方改革	(1) ア 府の部活動方針の遵守、全庁一斉退庁日や学校休業日の実施の徹底等、働き方改革について、教職員の意識を高める。 イ 仕事の効率化を図るとともに、時間外勤務の多い人の状況を把握し、相談等を実施するとともに、時間外勤務時間個票の配付を継続して健康管理への留意を促す。また、産業医と連携しその助言の活用を進める。	(1) アイ・校務の情報化・合理化等の推進 ・年間の時間外在校等時間が720時間を超える教員をゼロにする [5人] ・教員時間外勤務の年間平均時間 295時間以下 [290時間 55分] ・教員月 45時間超過者の延べ人数の減少 [153人] ・年次有給休暇の年間取得日数を8日以上にする [16日 4時間]	